

FE覚醒 最強の剣士

reiz0

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

クロム「おい。お前ら。大丈夫か？」

レイズ「ああ。」

ルフレ「大丈夫よ。」

クロム「隣り合って倒れてたけど、お前ら知り合いか？」

レイズ「……………」

ルフレ「……………」

レイズ ルフレ

『あんた誰?』

記憶が曖昧なので、台詞がおかしい所もありますが、許してください。
い。

目次

レイズとルフレ

クロム「ん？誰か倒れているな。」

青髪の青年が言う。

その青年の後ろには、まだ子供っぽさを残した少女と、騎士の男性。

青年は、倒れている人の元へ向かった。

倒れていたのは、二人の男女。

銀髪の少女と、長い黒髪で女顔の男性だ。

「青年たちは、男性が男だと気づいていない。」

クロム「おい、大丈夫か？」

青年が、男女に声をかけると、二人は目を覚ました。

クロム「俺はクロム。お前たちは？」

レイズ「俺はレイズだ。」

クロム「俺？」

レイズ「ん？男が俺って言ったらおかしいか？」

クロム リズ フレデリク

「男!？」

レイズ「……………」

三人が驚いたことに、不満そうな顔で三人を見る。

クロム「いや、すまん。女かと思っていた。」

レイズ「…………もういいよ。」

レイズは、すねたように顔を背けた。

ルフレ「あの、もういいかしら？」

クロム「ん？あ、ああ。」

ルフレ「私はルフレよ。」

クロム「隣り合って倒れてたようだが、お前ら知り合いか？」

クロムの言葉を聞き、レイズとルフレは向き合う。

レイズ「……………」

ルフレ「……………」

レイズ ルフレ

『あんた誰？』

クロムと一緒にいた妹のリズ、騎士のフレデリクの紹介を終わらせ、近くの街へ向かっていた。

リズ「ねえねえレイズさん。何でレイズさんは剣を4本も持つてるの？」

リズがレイズに問いかける。

レイズ「戦闘中に剣が折れても大丈夫なようにするためだ。

いちいち戦闘が終わるごとに武器を見直すなんて、そんなめんどくさいこと出来ないからな。

あらかじめ多めに持つとけば、折れた剣の分だけ補充すればいい話だからな。」

リズ「へー。色々考えてるんだね。」

レイズ「ただめんどくさがりなだけだよ。」

街に着いたレイズたちは、街が妙に騒がしいことに気づく。

フレデリク「襲われているようですね。」

クロム「山賊か。皆。片付けるぞ。」

五人それぞれが武器を構える。

ルフレ「・・・不思議だわ。」

レイズ「どうした？ルフレ。」

ルフレ「いや、相手の情報やなんか頭に入り込んで来るのよ。」

フレデリク「どうやら、軍師の才能があるようですね。」

クロム「ルフレ。皆に指示を出してくれ。」

ルフレ「わかったわ。レイズ。山賊のリーダーを倒してくれる？」

クロム「ちよつと待てルフレ。いきなりリーダーは
レイズ「了解。」

そう言うと、レイズは山賊たちに突っ込んで行った。

クロム「おい!!レイズ!!」

ルフレ「私、レイズを見た瞬間、ビックリしたわ。

だって、レイズ。
強すぎるもの。」

クロム達がレイズを見ると、何人もいる山賊をどんどん倒して
ていた。

まず、向かってきた山賊が斧を振り上げた所を剣で斬りつけ、他の
敵から投げられた手斧を剣で叩き落とし、持っていた剣を投げつけ、
その山賊を倒した。

そして、飛びかかってきた山賊の顔を蹴って吹き飛ばし、2本剣を抜き、次々と山賊を倒していった。

森の中で、レイズ達は食事をしていた。

リズ「私、熊なんて食べれないよー!!」

リズが叫ぶ。

クロム「我慢しろ、リズ。」

リズ「えー!?私、か弱い女の子だよ!?ねえ、ルフレさん!!」

ルフレ「そう?以外と美味しいけど。」

リズがルフレの方を見ると、気にすることなく普通に熊の肉を頬張っていた。

リズ「ええー。」

レイズ「……………」

レイズは熊の肉を置き、剣を持って皆のもとを離れた。

レイズは、何かを探すように周りを見渡していた。

今度は、耳をすました。

何か聞こえたのか、レイズはその方向へ向かっていった。

レイズが探していたのは、川だった。

ズボンを捲って川に入って、魚を手で掴み、川を出た。

そして、ナイフを取りだし、魚の鱗を取って内蔵を出して、下ごしらえを済ませた。

最後に、そこら辺の少し長い木の枝を折って、ナイフで先を削り、魚に刺すと、皆の元へ帰っていった。

クロム「どこ行ってたんだ？レイズ。」

帰ってきたレイズに、クロムが問いかける。

レイズ「ちよつと魚を取ってきた。」

そう言うと、レイズは魚を刺した棒を焚き火の近くに刺して焼くと、リズに手渡した。

レイズ「ほら。」

リズ「え？」

レイズ「熊の肉食えないんだろ？魚取ってきたから、食べよ。」

リズ「ありがとう!!」

リズは、レイズから魚を貰うと、魚にかぶりついた。

クロム「リズの為に、ありがとう。」

レイズ「大したことじゃねえよ。」

そう言いながら、レイズは置いておいた熊の肉にかぶり付いた。

レイズ「…………。」

全員が寝てしまった後、レイズは目が覚めた。周りを見渡した後、木々が生い茂る森へと歩いていった。

クロム「…………。」

リズ「どうしたの？お兄ちゃん。」

起き上がったクロムに、リズが問いかける。